

アナログプレイヤーの比較試聴(33)

—モーツアルトを聴く(33)—

1. 始めに

前報(32)に引き続き、アナログプレイヤー3機種 of 比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種 of 試聴経路は、ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した前報(18)と同様です。

音源は、モーツアルト of アナログ盤を使用していきますが、今回はヴァイオリンソナタです。

PHILIPS SFX-8533

モーツアルト ヴァイオリンソナタ変ロ長調

ヴァイオリンソナタ変ホ長調

ヘンリック・シェリング (ヴァイオリン)

イングリット・ヘブラー (ピアノ)

今回も、各プレイヤーにターンテーブルアキュライザーTACU-1 を使用していきます。また、LINN LP-12 の再生系では、ダンパーフレークの導入(1)で報告したダンパーフレークを2ヶ所に適用しています。さらに、ダンパーフレークの導入(3)で報告した TruPhase から 300B アンプに介在させたバランスアナログアキュライザーの出力側へのダンパーフレークを適用しています。

さらにダンパーフレークの導入(5)で報告したとおり ThorensTD124 と Grrad401 のカートリッジシェルにもダンパーフレークを適用しています。

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

ThorensTD124 と LINN LP-12 では、RIAA、正相、第4時定数 High で聴いていきます。

ThorensTD124 では、シェリングのヴァイオリンも、ヘブラーのピアノも、ある時は華やかに、ある時は抑制的に演奏していますが、そういった変容をうまく捉えて聴かせてくれます。

LINN LP-12 では、ThorensTD124 より一歩引いたような抑制的で端正な演奏になり、その分ディテールの再現度は向上します。

Grrad401 では、逆に ThorensTD124 より一歩前に出たような積極的な演奏になっており、これはこれで魅力があります。

4. まとめ

ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した結果も、3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、さらに、カートリッジのシェルへのダンパーフレークの適用効果もあって、すべてにおいて、グレード上がってきている印象です。

以上